

第13回鴨叡会・生命分子化学科セミナー報告書

2013年3月21日（木）午後4時30分から、京都府立大学合同講義室棟3階第4講義室にて、河原一樹先生（奈良女子大学）による講演（演題名：考古資料中に潜むタンパク質の構造安定性と分析可能性）が行われた。京都工芸繊維大学や大阪大学の学生も含め、約30名が、熱心に聴講した。講演では、考古資料中の膠や絹に含まれる蛋白質（コラーゲンやフィブロイン）の質量分析から、当時の生活や文化を知ることができるといった内容を、わかりやすくお話しいただいた。まさに理系の技術を文系の研究に応用利用した内容で、文理融合、学際的研究と言える。また同研究は「タンパク質考古学」と名付けられ、奈良女子大学を中心に研究を進められているとのことである。なお同講演後にも、活発な質疑応答があり、午後5時30分過ぎに閉会した。

